吉川左紀子

論文

Takemura, K., Uchida, Y., & Yoshikawa, S., “Roles of extension officers to promote social capital in Japanese agricultural communities.” *PlOS ONE* (in press).

Nagaoka, C., Yoshikawa, S., Kuwabara, T., Oyama, Y., Watabe, M., Hatanaka, C., & Komori, M., “A comparison of experienced counsellors, novice counsellors and non-counsellors in memory of client-presented information during therapeutic interviews.” *Psychologia: An International Journal of Psychological Sciences*, 2013, 56(2), 154-165.

布井雅人，中嶋智史，吉川左紀子「限定ラベルが商品魅力・選択に及ぼす影響」『認知心理学研究』2013, 11, 43-50.

野口素子，吉川左紀子「２者の会話における表情表出の抑制・誇張が受けての表情表出及び発話に及ぼす影響」『感情心理学研究』(印刷中).

著書

吉川左紀子「感情の表出とその理解」日本認知心理学会編『認知心理学ハンドブック』有斐閣，2013年，276-277頁.

吉川左紀子「顔の認知」藤永保監修『最新心理学事典』平凡社，2013年，62-63頁.

学会発表

Ueda, Y., & Yoshikawa, S., “Perceived dominance of facial expression in confrontation scenes.” 日本認知心理学会第11回大会（つくば国際会議場，つくば市）2013.6.29.

布井雅人，吉川左紀子「他者の人数が選好判断に及ぼす影響――視線・表情を用いた検討」日本認知心理学会第11回大会（同上）.

嶺本和沙，吉川左紀子「表情の順応効果に及ぼす表出強度の影響――異なる人物間の検討」日本認知心理学会第11回大会（同上）.

布井雅人，銭龍虎，上田祥行，吉川左紀子「非言語コミュニケーションにおける日中比較」日本心理学会第77回大会（札幌市産業振興センター，札幌市）2013.9.20.

講演等

吉川左紀子「幸せを支える仕事：今の社会に必要なこと」浄土宗寺庭婦人会第45回中央研修会，2013.5.15.

吉川左紀子「『認知・感情機能に及ぼす他者の影響』研究紹介およびこころの未来研究センターの取り組みについて」第２回応用脳科学サービスブレイン研究会，2013.8.28.

吉川左紀子「顔・表情の認識と身体性」こころの未来研究センター第２回こころ塾2013，2013.9.8.

吉川左紀子「人間関係とコミュニケーション」京都府看護協会実習指導者講習会，2013.10.30.

吉川左紀子「心の成長を支える仕事」追手門学院大学こころの教育連続講演会，2013.11.15.

吉川左紀子「創発を生むこころ：これまで，いま，そしてこれから」第５回懐かしき未来研究会，2013.3.13.

雑誌等

吉川左紀子「学際研究者のすすめ」『盛和スカラーズソサエティ会報』2013, 17, 20-21.

吉川左紀子「ミーハーのすすめ――人，こころ，文化への興味」『Ｕ７』2014, 53, 20-29.

社会活動等

文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会委員

文部科学省科学技術・学術審議会先端研究基盤部会委員

文部科学省科学技術・学術審議会研究開発プラットフォーム委員会委員

文部科学省大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員

文部科学省研究成果展開事業「センター・オブ・イノベーションプログラム」構造化チーム委員

京都市社会教育委員

船橋新太郎

論文

Funahashi, S., “Space representation in the prefrontal cortex.” *Progresss in Neurobiology*, 2013, 103, 131-155.

Funahashi, S., and Andreau, J.M., “Prefrontal cortex and neural mechanisms of executive function.” *Journal of Physiology Paris*, 2013, 107, 471-482.

Funahashi, S., “Thalamic mediodorsal nucleus and its participation in spatial working memory processes: comparison with the prefrontal cortex.” *Frontier in Systems Neuroscience*, 2013, 7 : 36 doi: 10.3389/fnsys.2013.00036.

Watanabe, K., and Funahashi, S., “Neural mechanisms of dual-task interference and cognitive capacity limitation in prefrontal cortex.” *Nature Neuroscience*, 2014, in press.

著書

竹林美佳，船橋新太郎「フラクタル図形に対するサルの好き嫌い」苧阪直行編『美しさと共感を生む脳：神経美学からみた芸術』新曜社，2013年，117-136頁.

学会発表

Watanabe, K., and Funahashi, S., “Primate prefrontal activity during simultaneous performance of spatial attention and spatial working memory tasks.” Society for Neuroscience Meeting (Neuroscience 2013), (San Diego, USA) 2013.11.12.

Funahashi, S., and Andreau, J.M., “Pair selectivity of primate prefrontal neurons in visual paired association performances.” Society for Neuroscience Meeting (Neuroscience 2013), (San Diego, USA) 2013.11.12.

Tanaka, A., and Funahashi, S., “Confidence Judgments and prefrontal neuronal activity in monkeys performing a spatial working memory task.” Society for Neuroscience Meeting (Neuroscience 2013), (San Diego, USA) 2013.11.12.

Watanabe, Y., and Funahashi, S., “Task-dependent modulation of primate thalamic mediodorsal activities during working memory performances.” Society for Neuroscience Meeting (Neuroscience 2013), (San Diego, USA) 2013.11.12.

Funahashi, S., “Function of reciprocal connections between prefrontal cortex and thalamic mediodorsal nucleus in spatial working memory,” The 4 th International Conference of Prefrontal Cortex, (Nanchang University, Nanchang, China) 2013.10.29.

望月圭，船橋新太郎「自由選択行動を決定付ける前頭連合野外側部ニューロンの活動」包括型脳科学研究推進支援ネットワーク，夏のワークショップ（名古屋国際会議場，名古屋市）2013.8.30.

Watanabe, K., and Funahashi, S., “Prefrontal neuronal activity during simultaneous performance of a spatial attention and a spatial working memory tasks.” 第36回日本神経科学大会（京都国際会館，京都市）2013.6.20.

Nakamoto, W., Onishi, H., and Funahashi, S., “Monkey’s preference for visual items: behavioral study.” 第36回日本神経科学大会（京都国際会館，京都市）2013.6.22.

Mochizuki, K., and Funahashi, S., “Role of the primate prefrontal neurons in choosing equally valuable actions.” 第36回日本神経科学大会（同上）.

Funahashi, S., and Andreau, J. M., “Primate prefrontal activities in visual paired association performances.” 第36回日本神経科学大会（同上）.

Ichihara-Takeda, S., Ikeda, N., Matsuyama, K., and Funahashi, S., “Effects of tailor-made cognitive rehabilitation method based on the prefrontal function on patients with dementia: a randomized controlled study.” 第16回世界作業療法士連盟大会（パシフィコ横浜，横浜市）2013.6.18.

船橋新太郎「やめる脳　やめられない脳」，『東京で知る　京大の知』シリーズ11「人はなぜハマる？」（京都大学東京オフィス，東京都）2013.6.11.

カール・ベッカー

論文

カール・ベッカー，戸松義晴，浅見昇吾「グリーフケアの課題と未来」『グリーフケア』上智大学グリーフケア研究所，2013, 102-126.

Kazuko Hiyoshi-Taniguchi, Carl B. Becker, Ayae Kinoshita, “Social Workers Can Use Sense of Coherence to Predict Burnout of End-of-Life Care-Givers.” *British Journal of Social Work* (May 30, 2013) pp. 1 -15. doi: 10.1093/bjsw/bct086.

カール・ベッカー「日本人の死生観と癒し」『日本精神保健看護学会誌』2013, 22 巻 2 号，109-116.

カール・ベッカー，「臨死体験と脳」『大法輪』80巻11号，2013, 11, 22-27.

中嶋文子，カール・ベッカー，赤澤千春，寺口淳子，小野千秋，渡辺美佳，浜崎美子，栃岡千香子，東真理，山田利恵「早期離職した看護師のストレス対処能力と退職理由の関係について」『医療の広場』2014, 54(4), 7 -10.

カール・ベッカー，「他界の証拠？」『プルーフ・オブ・ヘブン』エベン・アレグザンダー著，白川貴子訳，早川書房，2013年10月，238-247.

Michiyo Ando, Felicia Marquez-Wong, Gary Simon, Haruko Kira, Carl Becker, “Bereavement Life Review Improves Families’ Spiritual Well-Being and Depression of American Caregivers.” *Palliative and Supportive Care* (March 10, 2104) 2, pp. 1 -7. doi:10.1017/S1478951514000030.

駒田安紀，近藤（有田）恵，赤澤千春，中嶋文子，カール・ベッカー「新人看護師のバーンアウトとソーシャルサポート源」『看護管理』2014, 24(4), 2 -7.

糸島陽子，奥津文子，カール・ベッカー他「新卒看護師・看護師長のエンドオブライフに関する教育ニーズ」『人間看護学研究』2014, 12：25-32.

報告書等

中嶋文子，カール・ベッカー，赤澤千春，寺口淳子，小野千秋，渡辺美佳，浜崎美子，栃岡千香子，東真理，山田利恵「早期離職した看護師のストレス対処能力（SOC：Sense of Coherence：首尾一貫感覚）と退職理由の関係について」，公益財団法人政策医療振興財団『研究助成事業報告書－看護－』，2013年６月.

駒田安紀，カール・ベッカー「研究プロジェクト　治療者・社会・病に関する意識調査」『こころの未来』第11号，2013年11月，50頁.

カール・ベッカー「新人看護師のストレス予防とSOC改善調査」『こころの未来』第11号，2013年11月，51頁.

有田健一，カール・ベッカー「患者の意思を医療選択に生かすという文化の創生に向けて」『広島県医師会速報』2014年１月５日，18頁.

カール・ベッカー「異文化の中で問われる医療者の死生観と日本人の経験知」『国際看護』2014年３月10日，482, 5 - 7 頁.

カール・ベッカー，「選択肢～法律で明確化を」毎日新聞（富山版）2014年３月18日，26頁.

講演

Carl Becker, Lessons Learned from Disasters, ビクトリア市（カナダ），IWGDDB PreConference, 2013.4.27.

Carl Becker, Predicting Caregiver Burnout, ビクトリア市（カナダ），IWGDDB Conference, 2013.5.1.

カール・ベッカー「生老病死に対する日本人の経験智と自己決定」第36回品川セミナー（京都大学東京オフィス，東京都）2013.5.10.

Carl Becker, Why Redefining Death Requires Higher Education, Hallym University, Korea, Life and Death Studies, 2013.6.5.

カール・ベッカー「日本の医療に不足しているもの」日本皮膚科学会（横浜パシフィコ，横浜市）2013.6.14.

カール・ベッカー「日本人の死生観と癒し」第23回日本精神保健看護学会市民講演（京都テルサ，京都市）2013.6.16.

カール・ベッカー「日本の高齢者問題を考える」上越教育大学いのち教育を考える会「いのち教育セミナー」（上越教育大学，上越市）2013.6.27.

カール・ベッカー「死と終末期にどう向き合うか」いのちをめぐる連続講演会（新潟癌センター，新潟市）2013.6.28.

カール・ベッカー「日本に於ける高齢化問題」公開市民講演会（多治見病院，多治見市）2013.6.29.

カール・ベッカー「生と死を見つめて生きる」一燈園大愚塾，大地の会研修会（米原市）2013.7.14.

カール・ベッカー「SOCと幸福感」幸福研究会（京都大学経済学部，京都市）2013.7.22.

カール・ベッカー「日本人の死生観と癒し」精神保健看護学会京都大会（京都テルサ，京都市）2013.9.10.

カール・ベッカー「看護教育と悲嘆の癒し」岡本第二病院倫理研修会（岡本第二病院，京都市）2013.9.27.

カール・ベッカー「看護教育と悲嘆の癒しと倫理」京都府看護協会教育会（京都府看護協会，京都市）2013.9.28.

カール・ベッカー「どうする？あなたの看取り」明石市市民フォーラム（明石市市民会館，明石市）2013.10.26.

カール・ベッカー「ＳＯＣと燃え尽き」ＳＯＣ看護研究会（キャンパスプラザ京都，京都市）2013.11.9.

カール・ベッカー「死別悲嘆を越える日本人の知恵」広島赤十字・原爆病院（広島赤十字・原爆病院，広島市）2013.11.14.

カール・ベッカー「SOC, ACP, EOL」日本老年医学会（芝蘭会館，京都市）2013.11.16.

カール・ベッカー「死から生を考える」『いのち』を考える連続講座（関西国際大学尼崎キャンパス，尼崎市）2013.11.29.

カール・ベッカー「異文化の中で問われる医療者の死生観」国際看護交流協会（日本看護協会JNAホール，東京都）2013.11.30.

カール・ベッカー「9.11からの回復過程」こころの未来講演会（稲盛財団記念館３階大ホール，京都市）2013.12.5.

カール・ベッカー「今を大切に生きる」八代学院創立50周年記念講演（神戸国際大学，神戸市）2013.12.21.

カール・ベッカー「理想的な終焉とお寺の役割」真宗大谷派教学研究所，定期研修会（真宗大谷派教学研究所，京都市）2014.1.9.

カール・ベッカー「燃え尽きを乗り越える医療倫理」看護倫理研修会（武田病院，京都市）2014.1.20.

カール・ベッカー「死（限界）と生を視野に入れた教育」天理大学附属おやさと研究所宗教研究会（天理大学，天理市）2014.2.25.

カール・ベッカー「高齢者の危機を考える」花祭講演会（結城市民文化センター，結城市）2014.3.29.

河合俊雄

論文

井芹聖文，加藤のぞみ，小木曽由佳，畑中千紘，田中崇恵，土井奈緒美，河合俊雄，田中康裕，長谷川千紘，黒川嘉子，高嶋雄介「発達障害へのプレイセラピーによるアプローチ――新版K式発達検査2001を用いた検討」『箱庭療法学研究』2014, 26(3), 3 -14.

田中美香，金山由美，河合俊雄，桑原晴子，窪田純久，深尾篤嗣，網野信行，宮内昭「バセドウ病患者のカウンセリング過程にみられる特徴について――甲状腺専門病院での実践から」『日本心療内科学会誌』2013, 17, 174-179.

河合俊雄「色彩を持たない多崎つくるの現実への巡礼」『新潮』2013年７月号，242-251.

河合俊雄「色彩を持たない多崎つくると，彼の瞑想，巡礼，祈り」週刊朝日別冊『小説トリッパー』2013年夏季号，243-245.

河合俊雄「村上春樹におけるインターフェイスとしての夢」『新潮』2014年３月号，277-286.

河合俊雄「インターフェイスとしての夢と身体・他者」『身心変容技法研究』第３号，2014, 47-5.

河合俊雄「金子論文『孤独を見つめた女性との面接』へのコメント」『学習院大学相談室紀要』第９号，2014, 95-97.

河合俊雄「震災のこころのケア活動：縁と物語」『箱庭療法学研究』震災特別号，2014, 1 -12.

著書・翻訳

河合隼雄著，河合俊雄訳『日本人のこころを読む』岩波書店，2013年.

河合俊雄「大人の発達障害における分離と発生の心理療法」河合俊雄，田中康裕編『大人の発達障害の見立てと心理療法』創元社，2014年，4 -20.

河合俊雄「家族関係の希薄化と密着化」河合俊雄，田中康裕編『大人の発達障害の見立てと心理療法』創元社，2014年，186-193.

河合俊雄「はじめに」河合俊雄，赤坂憲雄編著『遠野物語　遭遇と鎮魂』岩波書店，2014年，v-viii.

河合俊雄「九九話を読む：インターフェイスと振り返り」河合俊雄，赤坂憲雄編著『遠野物語　遭遇と鎮魂』岩波書店，2014年，239-250.

河合俊雄「遠野物語と意識の成立」河合俊雄，赤坂憲雄編著『遠野物語　遭遇と鎮魂』岩波書店，2014年，31-54.

編集

河合隼雄（河合俊雄編）『〈子どもとファンタジー〉コレクションⅠ　子どもの本を読む』岩波現代文庫，2013年.

河合隼雄（河合俊雄編）『〈子どもとファンタジー〉コレクションⅡ　ファンタジーを読む』岩波現代文庫，2013年.

河合隼雄（河合俊雄編）『〈子どもとファンタジー〉コレクションⅢ　物語とふしぎ』岩波現代文庫，2013年.

河合隼雄（河合俊雄編）『〈子どもとファンタジー〉コレクションⅣ　子どもと悪』岩波現代文庫，2013年.

河合隼雄（河合俊雄編）『〈子どもとファンタジー〉コレクションⅤ　大人になることのむずかしさ』岩波現代文庫，2014年.

学会発表・ワークショップ

Kawai,T., “The Japanese Translation of The Red Book.” The 2013 International Jungian Conference in Taiwan. Taipe, 2013.10.17.-20.

井芹聖文，畑中千紘，長谷川千紘，河合俊雄，田中康裕，小木曽由佳，加藤のぞみ，田中崇恵，高嶋雄介，土井奈緒美，神代末人，皆本麻実「発達障害と診断される子どもの親面接」日本箱庭療法学会第27回大会（大阪府立大学，堺市）2013.10.25-26.

河合俊雄「曼陀羅としての箱庭」日本箱庭療法学会第27回大会ワークショップ（大阪府立大学，堺市）2013.10.25-26.

講演

河合俊雄「身殻と身柄――〈ひと〉をめぐって」シンポジスト，日本ユング心理学会第２回大会プレコングレス（京都大学百周年記念ホール，京都市）2013.6.15.

河合俊雄「『赤の書』における自我の位置と新しい意識」第60回日本病跡学会総会シンポジウム――ユング「赤の書」について.（大阪国際会議場，大阪市）2013.7.28.

Kawai,T., “Haruki Murakami and medieval Japanese stories.” The 2013 International Jungian Conference in Taiwan. (Public Speech , Taipei) 2013.10.17-20.

Kawai,T., “Haruki Murakami and Japanese Medieval Stories: Between Pre-Modern and Postmodern Worlds.” The Zurich Lecture Series in Analytical Psychology (ISAP, Zurich) 2013.10.4-5.

河合俊雄「大人の発達障害という視点とユング派心理療法」AJAJセミナー.（連合会館，東京都）2013.11.17.

河合俊雄「天橋立とこころのコスモロジー」こころの広場in宮津「天橋立とこころ」（清輝楼，宮津市）2013.11.25.

河合俊雄「夢分析の基本と現代性」AJAJセミナー.（京都テルサ，京都市）2013.12.22.

河合俊雄「明恵と熊楠」シンポジスト．明治大学野生の科学研究所公開講座「南方熊楠の新次元」第３回（明治大学，東京都）2014.1.13.

河合俊雄「河合隼雄との三度の再会」上廣フォーラム～日本人の生き方「わが先人，師を語る」京都大学知の伝統.（稲盛財団記念館，京都市）2014.1.26.

河合俊雄「ユング派心理療法の新しい可能性」2013年度第３回日本ユング心理学研究所第３回研修会全体講演（京都テルサ，京都市）2014.3.2.

河合俊雄「発達障害と現代の意識」第９回京都大学附置研究所・センターシンポジウム京都大学仙台講演会（仙台国際センター，仙台市）2014.3.15.

河合俊雄「河合隼雄の心理療法のめざしたもの――物語と「じねん」」（島根県臨床心理学研究会主催特別研修会（一般公開）（テクノアークしまね，松江市）2014.3.16.

新聞・一般雑誌・インタビュー等

河合俊雄「『母性神話』にさよならを」『VERY』2013年５月号，372-373.

河合俊雄「日本古来のものと中世」『月刊FECニュース』民間外交推進協会，2013年５月18日.

河合俊雄「はじめに」「解説」河合隼雄『こころの最終講義』新潮文庫，2013年，302-308.

河合俊雄「解説」河合隼雄（河合俊雄編）『〈子どもとファンタジー〉コレクションⅡ　ファンタジーを読む』岩波現代文庫，2013年，249-256.

河合俊雄「京都という魂のトポス」『桑兪』，2013年，66-70.

河合俊雄「まえがき」河合隼雄『こころの読書教室』新潮文庫，2014年，3 -5.

河合俊雄「強い回復力　震災で実感――杜で語る未来　京大附置研シンポを前に」読売新聞2014年２月11日朝刊.

河合俊雄「魂の町，京都」京都新聞（一日版），2014年３月１日.

河合俊雄「追悼，樋口和彦先生」『ユング心理学研究』第６巻，2014年，91-94.

河合俊雄「シンポジウム『震災と語り』におけるショートコメント」『モノ学・感覚価値研究』第８号，2014年，75-77.

河合俊雄「天橋立とこころのコスモロジー」京都府／京都大学こころの未来研究センター共同企画平成25年度報告書，2014年，28-35.

ラジオ出演

河合俊雄「河合隼雄との三度の再会」文化講演会，NHKラジオ第二，2014年３月９日（再放送：３月15日）.

鎌田東二

論文

鎌田東二「霊性の京都学」44–56,『月刊京都』2013年４月号～2014年３月号，白川書院.

鎌田東二「神道と浄め」『サンガジャパン』Vol.14, サンガ，2013年７月.

鎌田東二「西行の旅と歌の言霊」『怪』39号，角川書店，2013年７月.

鎌田東二「神話と歌にみる言霊思想」『地球システム・倫理学会会報』第８号，地球システム倫理学会，2013年６月.

鎌田東二「神社と遷宮の謎Q&A」『歴史街道』2013年８月号，PHP研究所.

鎌田東二「臨死体験と脳科学」『大法輪』2013年９月号，大法輪閣.

鎌田東二「暮らしに息づく聖なるサイクル」『季刊民族学』146号，2013年10月.

鎌田東二「持続千年首都・平安京の生態智」『比較文明』第29号，比較文明学会，2013年11月.

鎌田東二「日本の聖地文化と聖地感覚」『季刊SORA（そら）』2013冬号，ウェザーニューズ，2013年11月.

鎌田東二「感覚遮断と感覚解放」『地球人』No.18, ビイング・ネット・プレス，2013年12月.

鎌田東二「視力を超えた視力」『私の宗教』序文（ヘレン・ケラー著，高橋和夫他訳）未来社，2013年12月.

鎌田東二「日本人のスピリチュアリティ」『スピリチュアルケア』第62号，臨床パストラル教育研究センター，2014年１月.

鎌田東二「芸術・芸能とシャーマニズム――柳宗悦の『神秘主義』論と岡本太郎の『シャーマニズム』論を中心に」『身心変容技法研究』第３号，京都大学こころの未来研究センター，2014年３月.

鎌田東二「こころの練り方探究事始め　その四～井上円了と元良勇次郎から福来友吉までの『心理学』探究を中心に」『モノ学・感覚価値研究』第８号，京都大学こころの未来研究センター，2014年３月.

鎌田東二「神道とは何か？――ユーラシア・環太平洋交響楽としての神道」『日仏シンポジウム　ルーツとルーツの対話予稿集』日仏シンポジウム，2014年３月.

著書

鎌田東二『「のろい」を解く』文春文庫，文藝春秋，2014年５月.

鎌田東二「元雅と天河」梅原猛・観世清和監修『能を読む３　元雅と禅竹　夢と死とエロス』角川学芸出版，2013年５月，524～533頁.

五木寛之・鎌田東二『霊の発見』学研パブリッシング，2013年６月.

鎌田東二「鎮守の森から見たトトロ論」『ジブリの教科書３　となりのトトロ』スタジオジブリ編，文春文庫編，文藝春秋，2013年６月.

鎌田東二「身体と修行」『岩波講座 日本の思想 第五巻 身と心――人間像の転変』岩波書店，2013年６月.

鎌田東二『聖地感覚』角川ソフィア文庫，KADOKAWA，2014年10月.

鎌田東二『歌と宗教――歌うこと。そして祈ること』ポプラ新書，ポプラ社，2014年１月.

鎌田東二「生態智と平安文明」比較文明学会編『文明の未来』，東海大学出版会，2014年３月.

講演

鎌田東二「諸文明における母性的なるもの」地球システム・倫理学会第９回学術大会（筑波大学，つくば市）2013年11月.

鎌田東二「古事記ワンダーランド」『宮崎県神話のふるさと県民リレー講座』（宮崎県宮崎市県立美術館，宮崎市）2014年１月.

鎌田東二「日本人にとって『たましい』とは何ですか？」京都市教育委員会生涯学習部「親と子のこころの電話」事務局（京都市生涯学習センター，京都市）2014年１月.

新聞・一般雑誌・インタビュー等

鎌田東二「地域の力：固有の様式を蓄積　伝統と現代 結合が課題」徳島新聞2013年４月１日.

鎌田東二「ジブリに見る神　宗教文化の変遷反映　原像衰退し『神殺し』へ」徳島新聞2013年５月１日.

鎌田東二「震災後の修験道　神仏習合の叡智が鍵　自然に宿る『生態智』読解」徳島新聞2013年６月７日.

鎌田東二「柳宗悦と岡本太郎　日本の『伝統美』発見　民衆生活に根差す価値」徳島新聞2013年７月１日.

鎌田東二「『臨床宗教師』養成進む 東日本大震災 広がる霊的体験の悩み」読売新聞2013年７月26日夕刊.

鎌田東二「時間は『直線的循環』　繰り返す歴史　混迷の時代に文化誕生」徳島新聞2013年８月５日.

鎌田東二「東日本大震災関連プロジェクト――こころの再生に向けて」『教職員情報』京大生協，2013年８月20日号.

鎌田東二「巨大防潮堤　景観や生態系を破壊　末代まで禍根残す愚策」徳島新聞2013年９月２日.

鎌田東二「スピリチュアルケア　負の感情を鎮め昇華　少子高齢化で増す重要性」徳島新聞2013年10月１日.

鎌田東二「自己形成の機会創出　同様の場 各地に設立を」徳島新聞2013年11月１日.

鎌田東二コメント「『感謝，祈り，癒やし』を込めて　野辺の送りに鳴り響く鐘の音」『サンデー毎日』2013年11月10日.

「神の島の神事と日常描く『久高オデッセイ』京大で上映会」ドキュメンタリー映画『久高オデッセイ 第２部生章』（大重潤一郎監督，鎌田東二制作）上映会，鎌田東二解説，中外日報2013年11月26日.

鎌田東二「富士正晴生誕100年『皆酔うとき一人醒め』望見の感覚で自他捉え」徳島新聞2013年12月２日.

鎌田東二「新谷尚紀著『伊勢神宮と三種の神器』（講談社選書メチエ）」日本経済新聞2013年12月15日.

鎌田東二「鳥山敏子を偲ぶ『いのちの授業』実践　遺志継ぎ教育の羅針盤に」徳島新聞2014年１月３日.

鎌田東二コメント「和知太鼓を継承　『京都も，地域も』の視点必要」京都新聞2014年１月５日.

東洋大学でのシンポジウム「共生思想としての神仏習合」（主催：東洋大学国際哲学研究センター／2013年12月22日開催）仏教タイムス2014年１月９日・16日合併号.

鎌田東二インタビュー記事「祈りと自然　おそれと感謝今に」毎日新聞2014年１月15日京都版.

鎌田東二「四国霊場開創1200年　遍路がもたらす変革　高野山大の別科に期待」徳島新聞2014年２月４日.

鎌田東二「謎解き【京都】　泉涌寺に天皇陵なぜ？」読売新聞2014年２月６日付夕刊.

鎌田東二著『歌と宗教――歌うこと。そして祈ること』書評掲載，徳島新聞2014年２月18日「とくしま出版録」.

鎌田東二「浅田真央と宮本武蔵　武道哲学の神髄を具現　相反する概念統合し闘う」徳島新聞2014年３月１日.

テレビ出演

NHK，Eテレビ「地域伝統芸能まつり」佐陀神能解説．2014年３月15日.

内田由紀子

論文

Boiger, M., Mesquita,B., Uchida, Y., & Barrett, L. F., “Condoned or condemned:

The situational affordance of anger and shame in the US and Japan," *Personality and Social Psychology Bulletin*, 2013, 39, 540-553.
Park, J., Haslam, N., Shimizu, H., Kashima, Y., and Uchida, Y., "More human than others, but not always better: The robustness of self-humanizing across cultures and interpersonal comparisons," *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 2013, 44, 671-683.
荻原祐二，内田由紀子，楠見孝「対人関係におけるコントロール方略が感情状態に及ぼす影響」『対人社会心理学研究』2013, 13, 9 -14.
Ogihara, Y., and Uchida, Y., "Does individualism bring happiness? Negative effects of individualism on interpersonal relationships and happiness," *Frontiers in Psychology*, 2014, 5 :135. doi: 10.3389/fpsyg.2014.00135.
Hitokoto, H., and Uchida, Y., "Interdependent happiness: Theoretical importance and measurement validity," *Journal of Happiness Studies*, in press.
Uchida, Y., Ueno, T., and Miyamoto, Y., "You were always on my mind: The importance of "significant others" in the attenuation of retrieval-induced forgetting in Japan," *Japanese Psychological Research*, in press.
内田由紀子「東日本大震災後の幸福：震災がもたらした人生観と幸福感の変化」『環境研究』2012, 172, 83-91.
Uchida, Y., Takahashi, Y., and Kawahara, K., "Changes in hedonic and eudaimonic well-being after a severe nationwide disaster: The case of the Great East Japan Earthquake," *Journal of Happiness Studies*, 2014, 10.1007/s10902-013-9463-6.
Takemura, K., Uchida, Y., & Yoshikawa S., (2014). Roles of extension officers to promote social capital in Japanese agricultural communities. *PLOS ONE* 9 :e91975. doi:10.1371/journal.pone.0091975.
http://www.plosone.org/article/info% 3 Adoi% 2 F10.1371% 2 Fjournal.pone.0091975
Nagaoka, C., & Uchida, Y., "Preliminary study on the relation between the coping patterns and the mental health of radiation control personnel and non-destructive inspectors engaged in the periodic inspections of nuclear plants." *Journal of Occupational Health* (in press).

著書

内田由紀子「文化の変容と心の適応」山岸俊男編著『社会行動の文化・制度的基盤』勁草書房（印刷中）.
内田由紀子「感情と文化」『誠信心理学辞典』誠信書房（印刷中）.
内田由紀子「文化と自己」『誠信心理学辞典』誠信書房（印刷中）.
Uchida, Y., Norasakkunkit, V., and Kitayama, S., "Cultural constructions of happiness: Theory and empirical evidence." In A. Delle Fave (Ed.), *The exploration of happiness: Present and future perspectives*. 2013, pp. 269-280. Springer.
Uchida, Y., Ogihara, Y., and Fukushima, S., "Cultural construal of wellbeing: Theories and empirical evidence." In Glatzer, W., Moller, V., Camfield, L., & Rojas, M. (Eds.). in press, Global Handbook of Quality of Life. Exploration of Wellbeing of Nations and Continents. Springer.
Uchida, Y., & Norasakkunkit, V., Asian versus Western views. In: Michalos AC (Ed.). *Encyclopedia of Quality of Life and Well-Being Research*. Springer, Dordrecht, Netherlands: Springer, 2014, pp 248-253.

学会発表

Uchida, Y., Takahashi, Y., and Kawahara, K., "Happiness before and after a severe nationwide disaster: The case of the Great East Japan Earthquake," 12th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences (Bad Homburg, Germany) 2013.5.21.
Uchida, Y., "Further directions in research on well-Being: Strategies for achieving well-Being in changing cultural contexts and under stressful situations," 12th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences (Bad Homburg, Germany). 2013.5.22.
Fukushima, S., and Uchida, Y., "Collective well-Being in Japan," 12th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences (Bad Homburg, Germany) 2013.5.23.
Ogihara, Y., and Uchida, Y., "Does globalization decrease happiness in East Asia? A cultural psychological perspective," 12th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences (Bad Homburg, Germany), 2013.5.22.
Fukushima, S., Saizen, I., & Uchida, Y., "The synergy effect of economic and social capital on health," The International Conference on Social Stratification and Health(University of Tokyo, Tokyo) , 2013.8.31.
Uchida, Y., "Japanese well-being and its change under globalization," In symposium: Psychological basis of social inequality in health: The International Conference on Social Stratification and Health (University of Tokyo, Tokyo), 2013.9.1.
荻原祐二，内田由紀子，楠見孝「個人主義者は嫌われる？　個人主義的なひと・社会・生き方に対するイメージの検討」日本心理学会第77回大会発表論文（札幌コンベンションセンター，札幌市）2013.9. 21.
内田由紀子「文化変容と心の適応」“ワークショップ：文化心理学の新展開：神経科学，生命科学，発達科学，そして社会科学との接点を探る，”日本社会心理学会第54回大会（沖縄国際大学，宜野湾市）2013.11.2.
福島慎太郎，内田由紀子，西前出「個人の信頼が機能する集団の条件――コミュニティにおける住民の協力行動を対象にした分析」日本社会心理学会第54回大会（同上）.
荻原祐二，内田由紀子，楠見孝「日本社会の個人主義化は幸福をもたらすか？　文化の変容と個人の適応に関する経時的検討」日本社会心理学会第54回大会（同上）.
富永仁志，内田由紀子，宮本百合，山崎晃男「集合的非達成は包括的認知を促進するか？――共同演奏作業を通しての検証」日本社会心理学会第54回大会（同上）.
内田由紀子，吉成祐子，京野千穂「言語と文化援助行動における言語表現の検証」“ワークショップ：言語と心のインターフェイス，”日本社会心理学会第54回大会（沖縄国際大学，宜野湾市）2013.11.3.
吉成祐子，内田由紀子，京野千穂「援助行動における言語表現：第２言語習得の観点から」“ワークショップ：言語と心のインターフェイス，”日本社会心理学会第54回大会（同上）.
京野千穂，内田由紀子，吉成祐子「授受表現テモラウ・テクレルが示す話者の感情と認知」“ワークショップ：言語と心のインターフェイス，”日本社会心理学会第54回大会（同上）.
富永仁志，内田由紀子，宮本百合，山崎晃男「ペア合奏が認知傾向と感情経験に及ぼす影響について」日本音楽知覚認知学会2013年度秋季研究発表会（東京情報大学，千葉市）2013.11.10.
Tominaga, H., Uchida, Y., Miyamoto, Y., & Yamasaki, T., "Does collective failure increase holistic attention? " 10th Cultural Psychology Preconference (at the 15th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology), (Austin, Texas). 2014.2.13.
Ogihara, Y., Tominaga, H., Kameda, C., Abutsuka, S., Sakai, K., & Uchida, Y., "Does image of individualism differ between Japan and the United States? Analyses of inside and outside the head," The 10th Cultural Psychology Preconference (at the 15th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology), (Austin, Texas). 2014.2.13.
Fukushima, S., Saizen, I., and Uchida, Y., "Are cooperative individuals or cooperative groups generated depending on different types of trust?" The 15th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (Austin, Texas), 2014.2.15.
Ogihara, Y., Tominaga, H., Kameda, C., Abutsuka, S., Sakai, K., & Uchida, Y., "Is Individualism Perceived to be Egoism in Japan? Cultural Differences in the Image of Individualism." The 15th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology (Austin, Texas). 2014.2.15.

講演・ワークショップ

Uchida, Y., "Japanese well-being under globalization," The 2nd Seminar of Reexamining Japan in Global Context (Suntory Foundation, Osaka) 2013.5.11.
内田由紀子「復帰可能社会の実現に向けて――日本文化の特性とニート・ひきこもり」官邸再チャレンジ懇談会（首相官邸，東京都）2013.6.25.
内田由紀子「ブータンのGNH政策と幸福の多層性――個人レベル・集合レベルからみる幸福への視点」（指定討論；発表者：福島慎太郎）第６回京都大学ブータン研究会（京都大学，京都市）2013.7.4.
内田由紀子「こころが繋ぐ資本」京都流議定書「人をつなぐ，人を生かす，地域，町，未来」（ハイアットリージェンシー京都，京都市）2013.7.19.
内田由紀子，竹村幸祐「地域・人をつなぐ普及活動――農家の心を支える」平成25年度中国四国ブロック提案型研修（中国四国農政局，岡山市）2013.8.6.
内田由紀子「『こころ』と文化：日本的自己とコミュニケーション」高知大学医学部高知医療再生機構専門医等養成事業内分泌代謝（糖尿病）専門医養成研修会およびＤＣセミナー（高知大学，南国市）2013.8.23.
内田由紀子「日本における幸福度：文化的幸福観という視点から」JICAランチタイムセミナー（JICA，東京都）2013.8.28.
内田由紀子「つながりから価値を生む」〈こころを知る，未来を考える〉ダイアログBAR in 京都大学こころの未来研究センター（京都大学，京都市）2013.9.5.
内田由紀子「そもそも談義 in 京都――今こそ，本当の価値についての話をしよう」（信頼資本財団，京都市）2013.9.9.
Uchida, Y., (Discussant) "Rethinking of Development from Perspectives of GNH." International workshop in the Research center for Social Trust and Empowerment Process (STEP) (Kansai University, Suita). 2013.10.21.
内田由紀子「企業におけるメンタルヘルス――グローバル化時代の価値観の揺らぎ検証」平成25年度姫路市人権啓発センター　人権リーダー養成研修（イーグレ姫路，姫路市）2013.11.13.
内田由紀子（通訳・解説）講演者：ダショー・カルマ・ウラ「国民総幸福度（GNH）によるブータンの国づくり」関西生産性本部　ＫＰＣフォーラム（関西生産性本部，大阪市）2013.11.18.
内田由紀子「伝統産業の新しい形」〈こころを知る，未来を考える〉ダイアログBAR in 京都大学こころの未来研究センター（京都大学，京都市）2013.11.28.
Uchida, Y., "Changes in hedonic and eudaimonic well-being after a sever nationwide disaster: The case of the Great East Japan Earthquake." Seminar: Institute of Asian and Oriental Studies, University of Zurich 2013. 12.2.
Uchida, Y., "Happiness in Japan and current NEET-Hikikomori syndrome under the globalization." Department of Psychology, University of Konstanz. (2013. 12.3.)
内田由紀子「文化と幸福」第83回京大サロントーク（京都大学，京都市）2013.12.10.
内田由紀子「日本人のやる気のしくみと現代の若者の意識――働くことへの意味をどのように見いだすか」福田金属箔粉工業株式会社　平成25年度人権講話（福田金属箔分工業株式会社，京都市）2013.12.11.
内田由紀子「“ひきこもりの国”と日本人の行方」京都東ロータリークラブ例会卓話（ウェスティン都ホテル京都，京都市）2013.12.13.
内田由紀子「地域コミュニティの幸福感――文化心理学からのアプローチ」京都大学こころの未来研究センター研究報告会2013　こころの社会性（京都大学，京都市）2013.12.15.
内田由紀子・竹村幸祐「農村コミュニティにおけるソーシャル・キャピタルとその構築：普及指導員調査からのアプローチ」農林水産政策研究所，2013.11.20.

新聞・一般雑誌・インタビュー等

内田由紀子（コメント記載）　シリーズ「不安に踊る2013参院選」第５回　らしく生きなきゃ　中日新聞2013年７月20日.
書評「ひきこもり考」（河合俊雄・内田由紀子）「活字を楽しむ　京都・読書之森」毎日新聞京都版2013年８月４日.
書評「ひきこもり考」（河合俊雄・内田由紀子）『児童心理』2013年８月号（金子書房）「今月の本棚」（評者：高石恭子）
書評「農をつなぐ仕事：普及指導員とコミュニティへの社会心理学的アプローチ」（内田由紀子・竹村幸祐）「農の成り立ちを心理学から考える：普及指導員の活動を通して見る『つなぐ』ということ」『タキイ最前線』2013年秋号，p41-42.
書評「農をつなぐ仕事：普及指導員とコミュニティへの社会心理学的アプローチ」（内田由紀子・竹村幸祐）『月刊NOSAI』，2013，65号，p90
書評「農をつなぐ仕事：普及指導員とコミュニティへの社会心理学的アプローチ」（内田由紀子・竹村幸祐）『農業普及研究』第18巻第１号2013年（評者：二階堂孝子），p79-82.
書評「農をつなぐ仕事：普及指導員とコミュニティへの社会心理学的アプローチ」（内田由紀子・竹村幸祐）『地上』2013年５月号，vol.67, No.5, p81.
Uchida, Y., (研究紹介) "Culture and happiness: Balance-oriented happiness in Japan."in *Kyoto University Research Activities*, December 2013, p31.
内田由紀子・荻原祐二（研究紹介）「個人主義、日本では幸福感低い？　京大調査」京都新聞2014年３月20日.
内田由紀子（研究紹介）「“つながりの資本”から日本社会の幸福感を探求する「こころの未来研究センター」内田由紀子さんの仕事とは？」『Greenz.jp』2014年３月26日
内田由紀子（研究紹介）『未来に繋がる青いリボンのエトセトラ』京都大学.

受賞

内田由紀子，遠藤由美，柴内康文　日本グループ・ダイナミックス学会2013年優秀論文賞　受賞論文「人間関係のスタイルと幸福感：つきあいの数と質からの検討」（『実験社会心理学研究』第52巻１号，pp. 63-75.）2013年７月

社会活動

文部科学省安全・安心科学技術及び社会連携委員会委員
ブータンInternational Expert Working Groupコミティー
日本ドイツ研究所顧問

阿部修士

論文

Abe N., Fujii T., Suzuki M., Ueno A., Shigemune Y., Mugikura S., Takahashi S., Mori E., "Encoding- and retrieval-related brain activity underlying false recognition." *Neuroscience Research*, 2013, 76 (4): 240-250
Ogura K., Fujii T., Abe N., Hosokai Y., Shinohara M., Fukuda H., Mori E., "Regional cerebral blood flow and abnormal eating behavior in Prader-Willi syndrome." *Brain and Development*, 2013, 35 (5): 427-434

学会発表・ワークショップ等

阿部修士「脳機能画像法による正直さの研究」第16回日本ヒト脳機能マッピング学会（仙台国際ホテル，仙台市）2014.3.6-7.
伊藤文人，藤井俊勝，阿部修士，川崎伊織，林亜希子，上野彩，吉田一生，境信哉，麦倉俊司，高橋昭喜，森悦朗「性差と加齢がもたらす他者の顔に対する価値表象に関わる神経基盤への影響」第16回日本ヒト脳機能マッピング学会（同上）.
柳澤邦昭，阿部修士，嘉志摩江身子，野村理朗「死の想起と接近動機の関連――認知神経科学からのアプローチ」第16回日本ヒト脳機能

マッピング学会（同上）.
阿部修士「道徳性の脳科学――神経倫理学最前線」京都産業大学神山神経科学セミナー（京都産業大学，京都市）2013.12.17.
阿部修士「正直さ・不正直さの脳内メカニズム」第３回社会神経科学研究会（岡崎コンファレンスセンター，岡崎市）2013.11.28-29.
柳澤邦昭，阿部修士，嘉志摩江身子，野村理朗「死の想起後の文化的世界観の深化――側坐核の処理を介した説明モデル」第３回社会神経科学研究会（同上）.
伊藤文人，阿部修士，河地庸介，川崎伊織，上野彩，境信哉，吉田一生，森悦朗，松江克彦，藤井俊勝「顔に対する無意識的な価値表象に関わる神経基盤」第３回社会神経科学研究会（同上）.
柳澤邦昭，阿部修士，嘉志摩江身子，野村理朗「死の想起に伴う快情動処理の亢進に関する脳機能研究」日本社会心理学会第54回大会（沖縄国際大学，宜野湾市）2013.11.2-3.
Ito A., Abe N., Kawachi Y., Kawasaki I., Ueno A., Yoshida K., Sakai S., Matsue Y., Fujii T., "Dissociable roles of the nucleus accumbens and the ventromedial prefrontal cortex in preference formation for consciously and subconsciously perceived targets." Beauty and Value (Humboldt University of Berlin, Berlin, Germany) October 15-16, 2013.
阿部修士「記憶と人物認知――娘を妹と誤認する妄想性人物誤認症候群の一例から」（シンポジウム：記憶と社会的認知：認知神経科学からのアプローチ）第77回日本心理学会（札幌コンベンションセンター，札幌）2013.9.19-21.
Ito A., Fujii T., Abe N., Kawasaki I., Hayashi A., Ueno A., Yoshida K., Sakai S., Mugikura S., Takahashi S., Mori E., "Gender differences in the patterns of vmPFC activity associated with preference judgments for faces." International Neuropsychological Society 2013 Mid-Year Meeting (Hilton Amsterdam Hotel , Amsterdam, Netherlands) July 10-13, 2013.
阿部修士「正直な行動を形成する脳のメカニズム」公開シンポジウム「心の先端研究の地平」（京都大学霊長類研究所，犬山市）2013.7.6-7.
阿部修士，藤井俊勝，鈴木麻希，上野彩，重宗弥生，麦倉俊司，高橋昭喜，森悦朗「虚記憶の記銘と想起に関わる神経基盤」第15回日本ヒト脳機能マッピング学会（東京大学伊藤国際学術研究センター，東京都）2013.7.5-6.
Abe N., "Neural reward sensitivity predicts dishonest behavior (symposium: cognitive psychology of deception) ." The 10th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition (SARMAC) (Inntel Hotel, Rotterdam, Nederland) June 26-29, 2013.
阿部修士，Joshua D. Greene「腹側線条体における報酬感受性は不正直な行動を予測する」第36回日本神経科学大会（国立京都国際会館，京都市）2013.6.20-23.
伊藤文人，藤井俊勝，阿部修士，川崎伊織，林亜希子，上野彩，吉田一生，境信哉，麦倉俊司，高橋昭喜，森悦朗「顔に対する選好判断に関わる腹内側前頭前野の活動パターンにおける性差」第36回日本神経科学大会（同上）.

熊谷誠慈

論文
熊谷誠慈「ボン教における仏教二諦思想の受容とその展開」『東方学報』Vol. 88, 2013, 321-342.
熊谷誠慈「ブータンにおけるサキャ派仏教」『ヒマラヤ学誌』Vol. 15.（印刷中）.
熊谷誠慈 "History and Current Situation of the Sa skya pa school in Bhutan," *Bhutanese Buddhism and Its Culture*, Kathmandu: Vajra Publications.（印刷中）.
熊谷誠慈「ボン教の歴史的概要」『仏教史研究ハンドブック』，法藏館（印刷中）.
著書
熊谷誠慈，*Bhutanese Buddhism and Its Culture*, Kathmandu: Vajra Publications.（印刷中）.
講演・研究発表
熊谷誠慈「ブータン仏教とGNH（国民総幸福）」（龍谷大学，京都市）2013.4.25.
熊谷誠慈「ブータン仏教の歴史的展開」第３回日本ブータン研究会（早稲田大学，東京都）2013.5.12.
熊谷誠慈 "Bhutanese Spirituality and Gross National Happiness," 2013 Carnegie-Uehiro-Oxford Ethics Conference, カーネギー・上廣・オックスフォード倫理会議2013（Oxford: Oxford University, St Cross College）2013.6.20.
熊谷誠慈 "A Study on a Religious Minority in Bhutan: the Sa skya pa School and the Bon Tradition," 13th Conference of International Association for Tibetan Studies, Ulaanbaatar: National University of Mongolia. 2013.7.23.
熊谷誠慈「仏教は科学と対話できるのか？」第１回精神と科学との対話研究会（京都大学，京都市）2013.9.19.
熊谷誠慈「天橋立とブータンのこころ」第12回こころの広場in宮津　天橋立とこころ（京都府／京都大学こころの未来研究センター共同企画）（宮津：清輝楼）2013.11.10.
熊谷誠慈「ブータンにおける宗教実践：経典と教義の伝承」CIAS複合ユニット"宗教実践の時空間と地域"，個別ユニット"宗教実践における声と文字"共同研究会（京都大学，京都市）2013.12.14.
熊谷誠慈「仏教と科学との交差点」，京都大学アカデミックデイ2013（京都大学，京都市）2013.12.21.
熊谷誠慈「GNH（国民総幸福）政策に見られる伝統の価値の探求」，京都大学こころの未来研究センター・上廣こころ学研究部門2013年度研究報告会（京都大学，京都市）2014.1.25.

上田祥行

学会発表・ワークショップ等
Higuchi, Y., Ueda, Y., Ogawa, H., & Saiki, J., "Task sets determine implicitly learned stimulus information in spatio-temporal contextual cueing," Vision Sciences Society 13th Annual Meeting, Naples, USA. 2013.5.11.
Ueda, Y., & Komiya, A., "Viewing cultural scenery afford culture-specific visual attention," Vision Sciences Society 13th Annual Meeting, Naples, USA. 2013.5.11.
Saiki, J., Ueda, Y., Chen, R., Kopecky, J., Rensink, R., Meyer, D., & Kitayama, S., "Cultural differences in visual search with culturally neutral items," Vision Sciences Society 13th Annual Meeting, Naples, USA. 2013.5.15.
Ueda, Y., & Yoshikawa, S., "Perceived dominance of facial expression in confrontation scenes." 日本認知心理学会第11回大会（つくば国際会議場，つくば市）2013.6.29.
Higuchi, Y., Ueda, Y., Ogawa, H., & Saiki, J., "Task-related information is selectively learned in spatiotemporal contextual cueing." 日本認知心理学会第11回大会（同上）.
上田祥行，梶村昇吾，野村理朗「眼球運動計測を用いた創造性課題中の認知プロセスの解明」日本心理学会第77回大会（札幌コンベンションセンター，札幌市）2013.9.20.
布井雅人，銭龍虎，上田祥行，吉川左紀子「非言語コミュニケーションにおける日中比較」日本心理学会第77回大会（同上）.
上田祥行「視覚と触覚を通じて形成される三次元物体の脳内表象の解明」日本心理学会第77回大会小講演（札幌コンベンションセンター，札幌市）2013.9.21.
Ueda, Y., Chen, R., Cramer, E., Rensink, R., & Saiki, J., "Cultural differences in visual search with items defined by higher-order features," The 54th of Annual Meeting of Psychonomic Society, Toronto, Canada. 2013.11.15.
上田祥行，陳蕾，Cramer, E., Rensink, R., 齋木潤「複数の刺激セットにおける探索非対称性の文化差の検討」日本心理学会「注意と認知」研究会第12回合宿研究会（愛知県）2014.3.3.
樋口洋子，上田祥行，齋木潤「視覚場面を構成する物体群が持つ統計的規則性の潜在学習」日本心理学会「注意と認知」研究会第12回合宿研究会（愛知県）2014.3.3.

清家理

論文
清家理，櫻井孝，鳥羽研二「診療と一体化した認知症患者および家族への早期支援介入の意義――国立長寿医療研究センターもの忘れセンター『もの忘れ教室』の取り組み」，『精神病院協会』2013, 32(6), 70-75.
Aya Seike, Chieko Sumigaki, Akinori Takeda, Hidetoshi Endo, Takashi Sakurai, Kenji Toba, "Developing an Inter-professional Program of Educational Support for Patients and their Family Members in the Early Stage of Dementia -An Investigation Based on the Learning Needs and Attitude Changes of Patients and their Family Members –," *International Journal of Geriatric Gerontology*, In Press, 2014.4
清家理，住垣千恵子，武田章敬，遠藤英俊，櫻井孝，鳥羽研二「初期認知症患者および家族への多職種協働による教育的支援プログラム開発研究――認知症の確定診断直後の患者および家族の学習ニーズと意識変容からの考察」，"Current Progress in Comprehensive Care and Research on Memory Disorders in Japan"（抄訳版），*International Journal of Geriatric Gerontology*, In Press, 2014.4
著書
鳥羽研二監修，武田章敬，清家理編集『患者さんとご家族から学ぶ　認知症なんでも相談室』メジカルビュー社，2014.3.
学会発表
清家理，住垣千恵子，武田章敬，櫻井孝，遠藤英俊，鳥羽研二「介護当事者による介護者支援をねらいとした人材育成プログラム効果測定研究――内発的動機づけに主眼を置いた『家族教室アドバンストコース』からの考察」第14回日本認知症ケア学会大会（福岡国際会議場，福岡市），2013.6.1
櫻井孝，清家理，住垣千恵子，武田章敬，遠藤英俊，鳥羽研二「認知症を有する人とその家族に対する早期教育的介入の必要性――認知症疾患医療センターにおける『もの忘れ教室』アクションリサーチからの考察」第14回日本認知症ケア学会大会（同上）（石﨑賞受賞）.
住垣千恵子，清家理，遠藤英俊，櫻井孝，鳥羽研二「診療と一体化した患者・家族支援プログラムの検討」，第14回日本認知症ケア学会大会（同上）.
清家理，櫻井孝，住垣千恵子，武田章敬，遠藤英俊，カール・ベッカー，鳥羽研二「認知症患者および家族への多職種による早期教育的支援の効果――認知症疾患医療センターにおける『もの忘れ教室』RCTプレリサーチ」，第32回日本認知症学会学術集会（キャッセイ文化ホール，松本市），2013.11.8.
銘苅尚子，住江浩美，武田章敬，清家理「退院支援スクリーニングシステム改善への試み」第67回国立病院総合医学会（ホテル日航金沢他，金沢市），2013.11.8.
住江浩美，銘苅尚子，武田章敬，清家理「退院調整における衛生材料や医療材料の購入方法の改善へ向けた取り組み」第67回国立病院総合医学会（同上）.
Aya Seike, Chieko Sumigaki, Akinori Takeda, Hidetoshi Endo, Takashi Sakurai, Kenji Toba, "Educational support for Dementia family caregivers," The 16th Asia Pacific Regional Conference of Alzheimer's Disease International, (Hon Kong Convention Center, Hon Kong) 12 December 2013.
Aya Seike, Hiromi Sumie, Naoko Mekaru, Akinori Takeda, Yukihiko Washimi, Kenji Toba, "Nurse Support for expressing intention of dementia patients and their families -Consideration from discharge support of the critical care hospital-," The 16th Asia Pacific Regional Conference of Alzheimer's Disease International (Hon Kong Convention Center, Hon Kong) 13 December 2013.
清家理，銘苅尚子，住江浩美，梶原直美，荻野勝洸，松本光生，株本千鶴，武田章敬，村田千代栄，鷲見幸彦，カール・ベッカー「終末期に対する早期支援」京都大学こころの未来研究センター研究報告会（京都大学，京都市）2013.12.15.
清家理，梶原直美，金田伊代，伊藤孟，武田章敬，鷲見幸彦，櫻井孝，鳥羽研二，カール・ベッカー「倫理的観点に基づく認知症介護の質改善――家族介護者のニーズを探る」京都大学こころの未来研究センター研究報告会（京都大学，京都市）2013.12.15.
清家理，梶原直美，金田伊代，伊藤孟，武田章敬，鷲見幸彦，櫻井孝，鳥羽研二，カール・ベッカー「認知症を持つ人の家族介護者から見る終末期の備え――介護負担の先にあるもの」京都大学アカデミックデイ――みんなで対話する京都大学の日（京都大学，京都市）2013.12.21.
清家理「認知症の家族介護者の価値と揺らぎ」京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門研究報告会（京都大学，京都市）2014.1.25.
ワークショップ
清家理，村田千代栄「治療やケア現場で泣き寝入りしないために――患者学A to Z」縁がわカフェ（とよたや２階，常滑市）2013.11.16.
清家理，村田千代栄「人生の終末期で泣き寝入りしないために――終末期の備えを考えてみよう」縁がわカフェ（とよたや２階，常滑市）2014.1.11.
講演
清家理「コメディカルと保健・医療・福祉制度――使える知識を習得しよう」信州大学医学部医療保健福祉政策論（信州大学，松本市）2013.7.11.
清家理「私の360°を見渡してみましょう――認知症を持つ人と家族を地域で支えるって政策では言うけれど」，国立長寿医療研究センターもの忘れセンター家族教室（国立長寿医療研究センター，大府市）2013.6.17.
清家理「多職種に＋αの大切なエッセンスを――国立長寿医療研究センターもの忘れ外来での対応より」健康増進セミナー「認知症の予防と治療」杉浦地域医療財団主催（京都テルサ，京都市）2013.7.15.
清家理「私の介護地図の今でしょ！後程でしょ！の処方箋づくり――認知症を有する人を介護する私，地域で生きる私」，国立長寿医療研究センターもの忘れセンター家族教室（国立長寿医療研究センター，大府市）2013.7.22.
清家理「介護者の私をいたわることの５Ｗ１Ｈ」，国立長寿医療研究センターもの忘れセンター家族教室（国立長寿医療研究センター，大府市）2013.9.23.
清家理「認知症を持つ人と家族を地域で支える」国立長寿医療研究センターもの忘れセンター家族教室（国立長寿医療研究センター，大府市）2014.2.18.
清家理「認知症を持つ人と家族を地域で支える――私の支援者って誰？何？私の介護地図を作ろう」，国立長寿医療研究センターもの忘れセンター家族教室（国立長寿医療研究センター，大府市）2014.3.3.

新聞・一般雑誌・インタビュー等

村田千代栄，清家理「和室解放　高齢者講座に」中日新聞知多版2013年11月 8 日．

社会活動

介護予防サロンに関する社会的貢献モデル事業作業部会員（公益社団法人全国老人保健施設協会，2013.9〜）

認知症の早期診断，早期対応につながる初期集中支援サービスモデルの開発に関する調査研究事業委員（厚生労働省　平成25年度老人保健事業推進費等補助金，2013.6〜）

情報サイト作成：池畠宏之，清家理，武田章敬，鳥羽研二（編）「独立行政法人国立長寿医療研究センター認知症情報サイト」愛知県地域医療再生計画における認知症基盤整備事業；認知症に関する最先端の情報提供及び相互情報交換の実施プログラム，2013.12.10. 公開 http://monowasure.org/ninchi/

畑中千紘

論文

畑中千紘「発達障害におけるイメージの曖昧さ――ロールシャッハ・テストにおける『不確定反応』から」『箱庭療法学研究』2013, 26(1), 29-40.

井芹聖文，加藤のぞみ，田中崇恵，畑中千紘，小木曽由佳，土井奈緒美，河合俊雄，田中康裕，高嶋雄介，長谷川千紘，黒川嘉子「発達障害へのプレイセラピーによるアプローチ――新版K式発達検査2001を用いた検討」『箱庭療法学研究』2014. 26(3), 3 -14.

著書

畑中千紘「発達障害のロールシャッハ・テストにおける不確定反応――主体と対象の確定の試み」河合俊雄，田中康裕編『大人の発達障害の見立てと心理療法』創元社，2013年，128-146.

畑中千紘「発達障害の時代における自己の現況と変遷――ミクシィからフェイスブックへ」河合俊雄，田中康裕編『大人の発達障害の見立てと心理療法』創元社，2013年，219-234.

学会発表

畑中千紘「発達障害における不確定のイメージとその補完――ロールシャッハ・テストのクラスター分析から」日本箱庭療法学会第27回大会（大阪府立大学，堺市），2013.10.25-26.

井芹聖文，畑中千紘，長谷川千紘，河合俊雄，田中康裕，小木曽由佳，加藤のぞみ，田中崇恵，高嶋雄介，土井奈緒美，神代末人，皆本麻実「発達障害と診断される子どもの親面接」日本箱庭療法学会第27回大会（同上）．

Hatanaka, C., “The dreams of a patient who has difficulty in talking about her life,” Dr.Giegerich’s Dream Analysis and Mind-Body Transformation Seminar (NH City West Hotel Conference Room, Berlin) 2014.2.10.

新聞掲載

畑中千紘「『聞けていない』のが当たり前？」リビングかごしま2013年 4 月 6 日．

畑中千紘「『聞けていない』のが当たり前？」リビングかなざわ2013年 4 月 6 日．

畑中千紘「『聞けていない』のが当たり前？」リビング姫路2013年 8 月24日．

畑中千紘「視線気にせずおひとりさま」京大学食「ぼっち席」人気，朝日新聞2013年 7 月29日．

長谷川千紘

論文

Hasegawa, C., Umemura, K., Kaji, M., Nishigaki, N., Kawai, T., Tanaka, M., Kanayama, Y., Kuwabara, H., Fukao, A., & Miyauchi, A., “Psychological Characteristics of NEO-FFI and the Tree Drawing Test in patients with Thyroid Disease,” *Psychologia.*, 2013, 56(2), 138-153.

長谷川千紘「心理臨床場面における物語の位相――パラダイムとしての『物語』の再検討」京都大学博士学位論文，2014.

長谷川千紘「『語り』と主体――神経症と甲状腺疾患患者における語りの構造的特徴の検討」『箱庭療法学研究』（印刷中）．

井芹聖文，加藤のぞみ，小木曽由佳，畑中千紘，田中崇恵，土井奈緒美，河合俊雄，田中康裕，長谷川千紘，黒川嘉子，高嶋雄介「発達障害へのプレイセラピーによるアプローチ――新版K式発達検査2001を用いた検討」『箱庭療法研究』（印刷中）．

学会発表

井芹聖文，畑中千紘，長谷川千紘，河合俊雄，田中康裕，小木曽由佳，加藤のぞみ，田中崇恵，高嶋雄介，土井奈緒美，神代末人，皆本麻実「発達障害と診断される子どもの親面接」日本箱庭療法学会第27回大会（大阪府立大学，堺市）2013.10.26.

Hasegawa, C. “The dreams of a patient who suffer from anxiety caused by children’s nonattendance at school.” Dr.Giegerich’s Dream Analysis and Mind-Body Transformation Seminar 2014.2.10. (NH City West Hotel Conference Room, Berlin.)

奥井遼

論文

奥井遼「身体化された行為者（embodied agent）としての学び手――メルロ＝ポンティにおける『身体』概念を手がかりとした学びの探求」『教育哲学研究』2013, 107, 60-78.

Okui, H., “Subject, Language and Body: Merleau-Ponty’s Phenomenology in Educational Studies,” *Record of Clinical-Philosophical Pedagogy*, 2013, 12, 58-62.

奥井遼「わざの臨床教育学――淡路人形座における人形遣いの稽古および興行に関する現象学的記述」京都大学大学院教育学研究科博士論文，2014.

学会発表

Okui, H., “Puppet, the Lived Body: Sustained Collaboration in Animating a Puppet in the Awaji Theatre,” PRACTICES AND THEIR BODIES: 2nd Mainz Symposium of the Social & Cultural Studies, (Johannes Gutenberg University, Mainz, Germany), 2013.4.25.

Okui, H., “The Complex and Tacit Structures Underpinning Bodily Skills: Training for Awaji Puppet Theatre,” 9 th International CORPUS Symposium: Bodily Cultivation and Cultural Learning, (Taipei National University of the Arts, Taipei, Taiwan), 2013.5.25.

センターの動向（2013年10月〜2014年３月＊敬称略。肩書きは当時のもの）

●10月12日　第１回為末大vs.下條信輔対談セミナー「心を奪われること：遊び、夢中、ゾーン」（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。挨拶：吉川左紀子、対談・講演・参加者とのディスカッション：為末大（元陸上競技選手、株式会社R.project取締役）、下條信輔（カリフォルニア工科大学教授、センター特任教授）、コメンテーター：入来篤史（理化学研究所シニア・チームリーダー、センター特任教授）。

●10月24日　第15回身心変容技法研究会（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。発表：中島隆博（東京大学東洋文化研究所准教授）「荘子の身心変容技法」、コメンテーター：永澤哲（京都文教大学総合社会学部准教授）、総合討論、司会：鎌田東二。

●11月３日「支える人の学びの場　こころ塾2013」第３回「伝え合うこころ」（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。講義：乾敏郎（情報学研究科教授）「言語・非言語コミュニケーションの神経機構」、友永雅己（霊長類研究所准教授）「チンパンジーから見た心の発達と進化」、事例報告：小松則登（愛知県心身障害者コロニー中央病院）、司会：吉川左紀子。

●11月６日　第18回わく・湧く・ワークショップ「イメージワークとメディテーションの夕べ」（於：稲盛財団記念館３階小会議室１）。企画：カール・ベッカー。

●11月10日　京都府／京都大学こころの未来研究センター共同企画、第12回こころの広場in宮津「天橋立とこころ」（於：清輝樓／京都府宮津市）。リレートーク１：鎌田東二「丹後地方の『伝統知』とこころの未来――宗教民俗学の視点から」、リレートーク２：熊谷誠慈「天橋立とブータン」、リレートーク３：河合俊雄「天橋立とこころのコスモロジー」、司会：鎌田東二。

●11月14日　第16回身心変容技法研究会（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。発表１：小西賢吾（日本学術振興会特別研究員PD）「チベット仏教と身心変容技法の社会性」、コメンテーター：アルタンジョラー（李金灯）（こころの未来研究センター共同研究員）、発表２：藤野正寛（京都大学教育学部４回生）「Focused Attention と Open Monitoring が瞑想後の Default Mode Network に与える影響の比較」、総合討論、司会：鎌田東二。

●11月16日「支える人の学びの場　こころ塾2013」第４回「分かり合うこころ」（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。講義：乾敏郎（情報学研究科教授）「他者を知り、共鳴する脳」、田中康裕（教育学研究科准教授）「心理療法は発達障害から何を学ぶのか？」、事例報告：松島佳苗（医学研究科助教）、修了証贈呈・集合写真撮影、司会：吉川左紀子。

●11月23日　京都府／京都大学こころの未来研究センター共同企画シンポジウム「ワザとこころ」パートⅢ〜天神信仰と天神の祭り（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。趣旨説明：鎌田東二、基調講演：上田正昭（京都大学名誉教授）「天神信仰と天神の祭り」、報告１：寺井種伯（大阪天満宮宮司）「大阪天満宮の天神祭と天神信仰のワザとこころ」、報告２：加藤迪夫（北野天満宮権宮司）「北野天満宮の天神さんの祭りと天神信仰のワザとこころ」、報告３：竹居明男（同志社大学文学部教授）「天神の祭りと天神信仰のワザとこころ」、パネルディスカッション、司会：鎌田東二。

●11月28日「こころを知る、未来を考える　ダイアログBAR in 京都大学こころの未来研究センター　第３回――伝統産業の新しい形」（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。細尾真生（株式会社細尾代表取締役）、矢島里佳（株式会社和える代表取締役）、内田由紀子、熊谷誠慈。共催：NPO法人ミラツク、株式会社ウエダ本社。

●12月２日・５日　こころの未来講演会「死別悲嘆を巡る」（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。Part１（12/２）講師：Susan McCue（カリフォルニア州チコ市ソーシャル・ワーカー）「薬品で悲嘆を癒せるか？――DSM-５の悲嘆研究」、Part２（12/５）講師：カール・ベッカー「9.11からの回復過程『Rebirth』上映を参考に」、企画：カール・ベッカー。

●12月３日　2013年度こころ観研究会＋身心変容技法研究会合同研究会（於：稲盛財団記念館３階大会議室）。発表１：青木三郎（筑波大学大学院教授）「〈こころ〉と〈ことば〉の言語学」、発表２：高橋洋成（筑波大学人文社会系研究員）「ヘブライ語のleb（こころ）をめぐって」、発表３：シャキル・アフメド／Shakil Ahmed（筑波大学人文社会系研究員）「A Bengali Interpretation of Spirit, Mind and Heart」、総合討論、司会：鎌田東二。

●12月５日　第８回京都大学ブータン研究会（於：稲盛財団記念館２階225会議室）。発表：永澤哲（京都文教大学総合社会学部准教授）「浄土のために踊ること――第二次ドゥアル戦争とドチュラ祭」。企画：熊谷誠慈。

●12月７日　第３回日本情動学会大会（於：稲盛財団記念館３階大・中・小会議室）。シンポジウム「感情を探る」、はじめに：船橋新太郎、発表：福田正治（福井医療短期大学）「感情の科学」、藤田和生（京都大学）「感情の進化」、板倉昭二（京都大学）「感情の発達」、石黒浩（大阪大学）「感情を表現する」、岡田尊司「感情と病理」、松村京子（兵庫教育大学）「感情と教育」、閉会の辞：小野武年、大会長：船橋新太郎。

●12月15日　京都大学こころの未来研究センター研究報告会2013「こころの社会性」（於：稲盛財団記念館３階中会議室、ポスター会場は大会議室）。挨拶：吉川左紀子、研究報告：阿部修士「正直さには意志の力が必要か：脳科学

からのアプローチ」内田由紀子「地域コミュニティの幸福感：文化心理学からのアプローチ」、河合俊雄・畑中千紘「発達障害と現代の意識：臨床心理学からのアプローチ」、指定討論：三嶋理晃（京都大学理事・国際担当、京都大学医学部附属病院病院長）、熊野英介（アミタホールディングス株式会社代表取締役会長兼社長、公益財団法人信頼資本財団理事長）、ポスターセッション、総合討論。

●12月19日　第17回身心変容技法研究会（於：稲盛財団記念館3階小会議室2）。発表1：藤枝守（九州大学教授）「ディープ・リスニングと身心変容技法――ポーリン・オリヴェロスを中心として」、発表2：鎌田東二「芸術・芸能とシャーマニズム――柳宗悦の『神秘主義』論と岡本太郎の『シャーマニズム』論を中心に」、コメンテーター：アルタンジョラー、総合討論、司会：鎌田東二。

●12月21日　京都大学アカデミックデイ2013に参加（於：京都大学百周年時計台記念館2階）。座談会：熊谷誠慈、ポスター展示：清家理、安田章紀、福島慎太郎。

●12月25日・26日　こころの未来　脳科学集中レクチャー「機能局在から統合へ」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。講師：北澤茂（大阪大学大学院生命機能研究科教授）、企画：阿部修士。

●2014年1月7日　Shimon Edelman講演会“Happiness: evolutionary roots, cognitive basis, social dynamics”（於：稲盛財団記念館3階中会議室）。講師：Shimon Edelman（Department of Psychology at Cornell University）、企画：内田由紀子。

●1月23日　第18回身心変容技法研究会（於：京都大学稲盛財団記念館2階225会議室）。共通テーマ「芸術と身心変容技法第3弾」、発表1：松嶋健（京都大学人文科学研究所研究員）「俳優の身心変容技法――演劇人類学とパフォーマー」、発表2：山田真由美（作曲家・音ばね研究家）「身心変容技法としての音ばね」、総合討論、司会：鎌田東二。

●1月25日　こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門2013年度研究報告会「生きることの価値」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。挨拶：吉川左紀子、来賓挨拶：丸山登（公益財団法人上廣倫理財団事務局長）、上廣こころ学研究部門の紹介：カール・ベッカー、研究報告セッション1「生きることの価値とその揺らぎ」、座長・コメンテーター：河合俊雄、報告1：畑中千紘「現代社会における主体と価値の揺らぎ」、報告2：長谷川千紘「病をめぐる自己の揺らぎ」、報告3：清家理「認知症における家族介護者の価値の揺らぎ」、研究報告セッション2「幸福感と伝統の価値」、座長・コメンテーター：鎌田東二、報告1：奥井遼「身体の学びと伝統の価値の探究」、報告2：熊谷誠慈「GNH（国民総幸福）政策に見られる伝統の価値の探究」、報告3：阿部修士「脳科学による幸福感の探究」、パネルディスカッション、閉会の挨拶：鎌田東二。

●1月26日　上廣フォーラム～日本人の生き方「わが先人・師を語る――京都大学の知の伝統」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。開会挨拶：丸山登（公益財団法人上廣倫理財団事務局長）、吉川左紀子、講演：河合俊雄「河合隼雄との三度の再会」、河合雅雄（京都大学名誉教授）「今西錦司先生と仲間たち」、中西寛（京都大学法学研究科教授）「髙坂正堯先生の日本への思い」。

●2月1日　第2回為末大vs.下條信輔対談セミナー「心はコントロール可能か：モチベーションの源」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。挨拶：吉川左紀子、対談・講演：為末大（元陸上競技選手、株式会社R.project取締役）、下條信輔（カリフォルニア工科大学教授、センター特任教授）。

●2月12日・13日　fMRI体験セミナー2013（於：こころの未来研究センター連携MRI研究施設南部総合研究1号館地階MRI実験室）。レクチャー・実験指導、講師：阿部修士、上田祥行、中井隆介。

●2月19日　第19回身心変容技法研究会（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。発表1：乾敏郎（京都大学大学院情報学研究科教授／認知神経科学）「瞑想と催眠のメカニズムの認知神経科学」、コメンテーター：齋木潤（京都大学大学院人間・環境学研究科教授／認知科学）、永澤哲（京都文教大学准教授／宗教学・チベット密教瞑想研究）、総合討論、司会：鎌田東二。

●2月22日　第3回為末大vs.下條信輔対談セミナー「自分の知らない自分：潜在意識と感情」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。 挨拶：吉川左紀子、対談・講演：為末大（元陸上競技選手、株式会社R.project取締役）、下條信輔（カリフォルニア工科大学教授、センター特任教授）。

●2月24日　第4回ブータン文化講座「ブータンの魅力とGNHの現在――世界はGNH社会を求めるのか」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。 講演：草郷孝好（関西大学社会学部教授）、司会：熊谷誠慈。

●3月3日・4日・5日　2013年度こころの科学集中レクチャー　文化・進化と心：「人間＝文化的生物」の不思議に迫る（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。 講義1+2：北山忍（ミシガン大学心理学部教授、センター特任教授）「文化脳神経科学の視点」「社会・文化、生物的健康、長寿：炎症反応を手がかりに」、講義3+4：大平英樹（名古屋大学大学院環境学研究科教授）「意思決定を支える脳―身体の機能的相関」「身体化された正義」、講義5+6：増田貴彦（アルバータ大学心理学部准教授）「文化と認知：発達科学との協力にむけて」「文化と表現：文化的表象研究からわかること」、企画：内田由紀子。

●3月28日　第18回注意研究会（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。講師：Xiao-Jing Wang（New York University教授、New York University上海校副学長・教授）、企画：船橋新太郎。